

# 「子ども防災博士意見発表の部」

## 最優秀賞 「大地震から身を守るために」

根来小学校 鈴木 咲葵さん

今、私達が住んでいる場所、和歌山県は、三十年以内に七〇パーセントの確率で発生すると考えられている「南海トラフ大地震」の被害を大きく受けてしまうところです。地震は、いつか必ず起こります。その避けようのない大きな被害がおそってきた時、私達はどのように考え、行動すればよいのでしょうか。そのヒントは、あの痛ましい東日本大震災の悲劇からの教訓にあると思います。

みなさんは、「釜石の奇跡」という言葉を聞いたことがありますか。東日本大震災の津波による死者・行方不明者が千人をこえる釜石市で、小中学生全生徒のうち九十九・八パーセントである二千九百二十一人が津波から逃れることができたといえます。この出来事を指して、こう言われるようになりました。

なぜ、こんなにも多くの命が助かることができたのでしょうか。それは、地震発生の数年前から教えられていた「津波避難三原則」の考えが大きかったと言われています。

三原則のひとつめは、「想定にとらわれるな。」ということ。想定にたよれば、想定外の事態に対応できなくなります。自然災害である以上、人の考え以上のことが起こる可能性も意識しなければなりません。

ふたつめは、「最善をつくせ。」ということ。今やれることをこれ以上ないというところまで、あらゆる対応をすることが大切です。

みつめは「率先避難者たれ。」ということ。一生けん命に逃げる姿勢は、自分の命を救うだけでなく、周囲の人にも訴えかけることにもつながります。この三つの教えが強く釜石市の子どもたちに意識付けられていたからこそ、多くの命が救われたのだと思います。

釜石市のある小学校では、はじめ学校の屋上に避難していましたが、逃げる中学生を見て、別の避難場所の施設に行きました。しかし、「ここも危険だ。」と自ら判断した小中学生は、さ



意見発表会での様子

らに高い所へ避難したそうです。その後、その施設は津波におそわれました。三原則の教訓がなければ、このたくさんの命も助からなかったかもしれません。だから、みなさんも、もしこの場所で地震が発生したとしても、「ここには津波はこないから、大丈夫。」などと考えず、この三原則を思いだし、すぐに最善と思う方法で避難してください。

私が地震から命を守るために必要だと思っていつことは、他にもあります。まず、食料や水、電気やトイレなどの生活用品を十分に用意しておくことです。震災が発生すれば、その規模によっては数日間救助がこられないことも考えられます。そんな時、食料をはじめとする生活用品があるかどうかで生きぬいていける可能性が変わってくるでしょう。

次に、様々な防災訓練に積極的に参加していざという場合に備えるということです。私は先日、那賀高校の防災スクールに参加して自衛隊の方から丈夫で役に立つロープの結び方や、けがをした人を運ぶ方法などを教えてもらいました。これまで、こういったことを全く知らなかった私にとってそれはおどろきとともに、本当に地震がおこった時には、自分や家族を守ることにつながるかもしれないという大きな自信を感じる体験となりました。なにより、非常食を試食したり、実際に避難したりする体験を通して、私自身の防災というものに対する意識の高まりを実感できたことが有意義なものであったと思います。

大地震はおこります。それは避けようがありません。ですが、発生した時に、命を守る方法は、私達自身が選択できることです。毎日の何気ない日常の中で、その時に備えた心を持ち続けることが、東日本大震災から学ばなければならない私たちの教訓だと私は思います。